



<資料3-2>

修正前		修正後		備考
頁	内容	頁	内容	
p.4	<p>【事業概要】</p> <p><b>2 事業目的</b></p> <p>【事業目的】 市内の公共工事等で発生する<b>濃濁土砂</b>や<b>陸上発生残土</b>について、それらの<b>処分場</b>として夢洲を活用することにより、処分コストの軽減を図るとともに、良好な都市環境の保全を図り、土地造成を進めることを目的とする。 また、国際コンテナ戦略港湾・大阪港の中心的機能を担う<b>国際物流拠点</b>としての土地利用、及び国際的エンターテインメント拠点の形成等による<b>国際観光拠点</b>としての土地利用といった、大阪・関西の成長・発展に寄与することを目的とする。</p> 	p.4	<p>【事業概要】</p> <p><b>2 事業目的</b></p> <p>【事業目的】 市内の公共工事等で発生する<b>濃濁土砂</b>や<b>陸上発生残土</b>について、それらの<b>処分場</b>として夢洲を活用することにより、処分コストの軽減を図るとともに、良好な都市環境の保全を図り、土地造成を進めることを目的とする。 また、国際コンテナ戦略港湾・大阪港の中心的機能を担う<b>国際物流拠点</b>としての土地利用、及び国際的エンターテインメント拠点の形成等による<b>国際観光拠点</b>としての土地利用といった、大阪・関西の成長・発展に寄与することを目的とする。</p> 	本市業再評価の対象エリアが分かるように、本事業対象範囲の図示を追加。
p.10	大阪港埋立事業の累積資金残高（今後10年間）	p.10	港営事業会計（大阪港埋立事業）の累積資金残高（今後10年間）	グラフの題名として、会計名を追記。
p.10	—	p.10	咲洲、舞洲、鶴浜、夢洲の4つの地区全体における累積資金残高グラフ	グラフの前提条件として補足説明を追加。
p.10	※ 令和6年10月時点公表データより	p.10	※ 令和6年10月時点公表データより 大阪市HP（港営事業会計の長期収支見込） URL： <a href="https://www.city.osaka.lg.jp/port/page/0000212675.html">https://www.city.osaka.lg.jp/port/page/0000212675.html</a>	データの公表先にアクセスできるように、長期収支のHPのURLを追記。
p.11	平成29年、大阪府・関西経済界とともに「夢洲まちづくり構想」を策定し、国際物流機能の強化とともに、大阪の成長をけん引する新たな国際観光拠点の形成を図ることとした。	p.11	平成29年、大阪府・関西経済界とともに「夢洲まちづくり構想」を策定し、国際物流機能の強化とともに、 <b>大規模なまちづくりが可能な用地を確保できる夢洲において</b> 、大阪の成長をけん引する新たな国際観光拠点の形成を図ることとした。	夢洲で国際観光拠点の開発が必要である理由の補足として、3ページ目「大規模なまちづくりが可能な用地を確保できる夢洲において、」を追記。
p.11	—	p.11	令和元年、人口減少や超高齢化が進み、需要・労働力の減少などが懸念される中において、今後の市場拡大など将来性が見込まれる成長産業である観光への注力が必要であり、大阪の更なる成長のために、大阪・夢洲地区特定複合観光施設（IR）設置運営事業の設置運営事業予定者の公募を開始した。	夢洲で国際観光拠点の開発が必要である理由の補足として、5ページ目「令和元年～」を追記。

p.17	<p>現在、2025年日本国際博覧会の開催及びIR開業に向けた整備や万博跡地における第2期区域の開発に向けたマスタープランの策定に向けた取り組みを実施しており、今後の整備（第2期、第3期開発等）なども含めて、大阪の成長をけん引する新たな国際観光拠点の形成にあたり、夢洲の土地利用の必要性が高まっていることから、本事業を継続して実施する必要がある。</p>	p.17	<p>大阪を取り巻く状況として、経済低迷、少子高齢社会などの大きな課題が存在しており、低迷する経済の状況や将来的な人口減少に伴う国内需要の低下を阻止し、需要を喚起するため、アジア各国・地域の活力を取り込むなど、国内外から人・モノ・投資を呼び込むための大阪経済成長の起爆剤が必要な状況である。よって、大規模なまちづくりが可能な用地を確保できる夢洲において「新たな国際観光拠点」の形成を図り、大阪の更なる成長が求められている。</p> <p>現在、2025年日本国際博覧会の開催及びIR開業に向けた整備や万博跡地における第2期区域の開発に向けたマスタープランの策定に向けた取り組みを実施しており、今後の整備（第2期、第3期開発等）なども含めて、大阪の成長をけん引する新たな国際観光拠点の形成にあたり、夢洲の土地利用の必要性が高まっていることから、本事業を継続して実施する必要がある。</p>	<p>夢洲で国際観光拠点の開発が必要である理由の補足として、「大阪の取り巻く状況などの背景（1段落目）」を追記。</p>																														
p.21	※ 令和6年10月時点公表データより	p.21	<p>※1 令和6年10月時点公表データより          ※2 埋立事業費に夢洲土地造成事業が含まれている</p>	<p>説明として、埋立事業費に夢洲土地造成事業の費用が含まれていることを追記。</p>																														
—	—	p.26	<p>【参考】土地課題対策工事の内容等</p>  <table border="1" data-bbox="974 981 1478 1093"> <thead> <tr> <th>区域</th> <th>土壌汚染対策</th> <th>地中障害物除去</th> <th>液状化対策</th> <th>小計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1期区域</td> <td>356 億円</td> <td>22 億円</td> <td>255 億円</td> <td>633 億円</td> </tr> <tr> <td>1期区域を除く第2期区域</td> <td>584 億円</td> <td>36 億円</td> <td>250 億円</td> <td>870 億円</td> </tr> <tr> <td>2期区域</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3期区域</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>940 億円</td> <td>58 億円</td> <td>505 億円</td> <td>1,503 億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 土地課題対策費用は、国土交通省の公表データ（国土交通省「国土強靭化戦略」2024年10月版）より。          ※2 埋立事業費は、国土交通省の公表データ（国土交通省「国土強靭化戦略」2024年10月版）より。</p>	区域	土壌汚染対策	地中障害物除去	液状化対策	小計	1期区域	356 億円	22 億円	255 億円	633 億円	1期区域を除く第2期区域	584 億円	36 億円	250 億円	870 億円	2期区域					3期区域					小計	940 億円	58 億円	505 億円	1,503 億円	<p>土地課題対策の補足説明として追加。</p>
区域	土壌汚染対策	地中障害物除去	液状化対策	小計																														
1期区域	356 億円	22 億円	255 億円	633 億円																														
1期区域を除く第2期区域	584 億円	36 億円	250 億円	870 億円																														
2期区域																																		
3期区域																																		
小計	940 億円	58 億円	505 億円	1,503 億円																														